



1 改訂の趣旨及び要点

改訂の基本的な考え方

今回の改訂では、次の考え方を踏まえて、改善・充実が図られました。

- ・複数の情報を関連付けて理解を深めることなどに課題があり、更なる授業改善が求められている。
- ・教材のみを教えるのではなく、**指導のねらいを明確にした上で言語活動を適切に位置付ける**ことが必要である。

目標の構成の改善

国語科で育成を目指す資質・能力（下線部）を三つの柱で整理しています。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識・技能の習得

(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようになる。

思考力・判断力・ 表現力等の育成

(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

学びに向かう力・ 人間性等の涵養

(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

内容の構成の改善

これまで、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で構成していた内容を、**【知識及び技能】**及び**【思考力、判断力、表現力等】**で再構成しました。

「**学びに向かう力、人間性等**」については、教科の目標及び学年目標においてまとめて示しています。

現行学習指導要領

話すこと・聞くこと

書くこと

読むこと

伝統的な言語文化と
国語の特質に関する事項

新学習指導要領

【知識及び技能】

- (1)言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2)情報の扱い方に関する事項
- (3)我が国の言語文化に関する事項

【思考力、判断力、表現力等】

- A 話すこと・聞くこと
- B 書くこと
- C 読むこと

学習内容の改善・充実

〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の各指導事項について、育成を目指す資質・能力が明確になるよう内容を改善しています。

○語彙指導の改善・充実

各学年において、指導の重点となる語句のまとまりを示すとともに、語句への理解を深める指導事項を系統化して示している。

○情報の扱い方に関する指導の改善・充実

「情報の扱い方に関する事項」を新設し、「情報と情報との関係」と「情報の整理」の二つの系統に整理して示している。

○学習過程の明確化、「考えの形成」の重視

ただ活動するだけの学習にならないように、学習過程を改めて整理している。また、全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けている。

○我が国の言語文化に関する指導の改善・充実

「伝統的な言語文化」「言葉の由来や変化」「書写」「読書」に関する指導事項を「我が国の言語文化に関する事項」として整理して示している。

○漢字指導の改善・充実

都道府県名に用いる漢字20字を「学年別漢字配当表」の第4学年に加えるとともに、児童の学習負担に配慮し、第4学年、第5学年、第6学年の配当漢字及び字数の変更を行っている。

また、小・中学校を通じて、各指導事項と言語活動例のそれぞれにおいて系統化が図られています。中学校とのつながりを意識しながら繰り返して学習し、資質・能力の定着を図りましょう。

2 小学校国語科における授業づくりのポイント

Point 1

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をしましょう。

授業改善を行うに当たっては、児童が言語活動の中で「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉の特徴や使い方などの「知識及び技能」や、自分の思いや考えを深めるための「思考力、判断力、表現力等」を身に付けていくことができるよう、学習指導の創意工夫を図りましょう。

〈主体的な学びの視点〉

- ・学習の見通しを立てたり振り返ったりする学習場面を位置付ける。
- ・実社会や実生活との関わりを重視した学習課題として、子供たちに身近な話題や現代の社会問題を取り上げたり自己の在り方生き方に関わる話題を設定したりする。
- ・学習を振り返る際、子供自身が自分の学びや変容を見取り自分の学びを自覚することができ、説明したり評価したりすることができるようにする。

〈対話的な学びの視点〉

- ・子供同士、子供と教職員、子供と地域の人が、互いの知見や考えを伝え合ったり議論したりできるようにする。
- ・本を通して作者の考えに触れ、自分の考えに生かすことができるようにする。
- ・互いの知見や考えを広げたり、深めたり、高めたりする言語活動を行う学習場面を計画的に設ける。

〈深い学びの視点〉

- ・「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設ける。
- ・子供自身が自分の思考の過程をたどり、自分が理解したり表現したりした言葉を、創造的・論理的思考の側面、感性・情緒の側面、他者とのコミュニケーションの側面からどのように捉えたのか問い直して、理解し直したり表現し直したりしながら思いや考えを深めることができるようにする。
- ・思考を深めたり活性化させたりしていくための語彙を豊かにする。

Point 2

学習過程を明確にした授業づくりを行いましょう。

今回の改訂では、学習過程を一層明確にし、各指導事項が位置付けられています。

なお、この学習過程は順序性を示すものではないため、各指導事項を必ずしも順番に指導する必要はありません。ここでは一例として「B書くこと」の領域の学習過程を提示しています。

例〔第3学年及び第4学年の内容〕

B書くこと
題材の設定
情報の収集
内容の検討
構成の検討
考えの形成
記述
推敲
共有

〔「B書くこと」の学習過程〕

- 相手や目的を意識する
- 集めた材料を比較したり分類したりする
 - ・同じような材料を比較して、どちらが自分の書きたい事柄にあっているかを考えたり、読み手が理解しやすいように、事柄ごとに材料を分類したりすることを通して、伝えたいことを明確にすることが重要。
- 書く内容の中心を明確にする
- 段落相互の関係に注意し、文章の構成を考える
- 考えを支える理由や事例を記述する
- 間違いを正す
- 相手や目的を意識した表現になっているかを確認する
- 文章に対する意見を伝え合う
- 自分の文章のよいところを見付ける

指導事項から付けたい力を設定し、その付けたい力に適した言語活動を位置付けることが大切です。

国語科の授業は、問いを追究する一連の学習として、言語活動を組織していく必要があります。その言語活動の連なりが単元になります。単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図っていきましょう。



1 改訂の趣旨及び要点

改訂の基本的な考え方

今回の改訂では、次の考え方を踏まえて、改善・充実が図られました。

- ・根拠を明確にして自分の考えを書くことや**複数の情報を関連付けて理解を深める**ことなどに課題がある。
- ・教材のみを教えるのではなく、単元を構想する際には、**指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付ける**ことが求められている。

目標の構成の改善

国語科で育成を目指す資質・能力（下線部）を三つの柱で整理しています。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識・技能の習得

(1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

学びに向かう力・人間性等の涵養

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

内容の構成の改善

従来、3領域1事項で構成していた内容を、【知識及び技能】及び【思考力、判断力、表現力等】で再構成しています。

「学びに向かう力、人間性等」については、教科目標、学年の目標にまとめて示しています。

現行学習指導要領

話すこと・聞くこと

書くこと

読むこと

伝統的な言語文化と
国語の特質に関する事項

新学習指導要領

【知識及び技能】

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2) 情報の扱い方に関する事項
- (3) 我が国の言語文化に関する事項

【思考力、判断力、表現力等】

- A 話すこと・聞くこと
- B 書くこと
- C 読むこと

学習内容の改善・充実

【知識及び技能】と【思考力、判断力、表現力等】の各指導事項について、育成を目指す資質・能力が明確になるよう内容を改善しています。

○語彙指導の改善・充実

語彙は、全ての教科等における学習の基盤となる重要な要素である。このことを踏まえ、語句への理解を深める指導事項を系統化して示している。

○情報の扱い方に関する指導の改善・充実

急激に情報化が進展する社会において、必要な情報を収集したり、整理したり、表現したりすることが求められている。このため、「情報の扱い方に関する事項」を新設し、「情報と情報の関係」と「情報の整理」の二つの系統に整理して示している。

○学習過程の明確化、「考えの形成」の重視

活動の中で確実に資質・能力が身に付くように、学習過程をより具体的に示し、指導事項を位置付けている（次ページのPOINT2参照）。また、全ての領域において、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けている。

○我が国の言語文化に関する指導の改善・充実

「伝統的な言語文化」「言葉の由来や変化」「書写」「読書」に関する指導事項を整理して示している。

また、小・中学校を通じて、各指導事項と言語活動例のそれぞれにおいて系統化が図られています。小学校での指導内容を踏まえた学習となるようにし、資質・能力の定着を図りましょう。

2 中学校国語科における授業づくりのポイント

Point 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をしましょう。

国語科では、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などの「知識及び技能」や自分の思いや考えを深めるための「思考力、判断力、表現力等」を身に付けていきます。

次の授業改善の三つの視点を踏まえて学習指導の創意工夫を図りましょう。

〈主体的な学びの視点〉

- ・単元でどのような言語活動を行うかなどの学習の見通しを立てたり、振り返ったりする学習場面を計画的に設ける。
- ・実社会や実生活との関わりを重視した学習課題（現代の社会問題や人間としての在り方について批評するなど）を設定する。
- ・新しく学んだことやより深く学んだことを振り返り、説明したり評価したりできるようにする。

〈対話的な学びの視点〉

- ・自分の考えを他者と比較して共通点や相違点を明らかにしたり、捉え方の違いやその理由などについて考えるような話し合いや交流活動を行う。
- ・本を通して作者の考えに触れ、自分の考えに生かすことができるようにする。

〈深い学びの視点〉

- ・指導事項に示されている資質・能力を確実に育成するため、生徒が「言葉」に着目して理解したり、「言葉」に気を付けて表現したりする言語活動を適切に設定する。
- ・思考を深めたり活性化させたりしていくための語彙を豊かにする。

Point 2 学習過程を踏まえた単元の構想をしましょう。

今回の改訂では、〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において学習過程が再整理されました。これは、生徒が学習の見通しをもったり学習したことを振り返ったりすることを効果的に行うためです。

教師と生徒が学習過程の全体像を理解して、各指導事項を指導したり、身に付けていくことが大切です。

A 話すこと・聞くことの学習過程	B 書くことの学習過程	C 読むことの学習過程
○話題の設定、情報の収集、内容の検討 ○構成の検討、考えの形成 (話すこと) ○表現、共有 (話すこと) ○構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有 (聞くこと) ○話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有 (話し合うこと)	○題材の設定、情報の収集、内容の検討 ○構成の検討 ○考えの形成、記述 ○推敲 ○共有	○構造と内容の把握 ○精査・解釈 ○考えの形成、共有

Point 3 単元の中に言語活動を位置付けて、指導事項を身に付けさせましょう。

〔思考力・判断力・表現力等〕の各領域において、どのような資質・能力を育成するかを(1)の指導事項に示し、どのような言語活動を通して資質・能力を育成するかを(2)の言語活動例に示しています。

単元や授業を構想する際には、学習指導要領の指導事項を踏まえて、単元や本時のねらいを設定しましょう。また、言語活動例と生徒の学習状況や興味等を踏まえて、効果的な言語活動を単元の中に位置付けましょう。

【指導事項】

「根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること」 (第1学年 B書くこと (1)カ)

【ねらい】

「根拠を明確にして、自分の考えを書くことができる」

【言語活動例】

「事実やそれを基に考えたことを書く活動」 (第1学年 B書くこと (2)ア)

【設定する言語活動】

「資料を引用して、興味のあることの紹介文を書こう」

授業づくりのイメージ

- ① 学習指導要領の指導事項を踏まえ単元や本時のねらいを設定する。
- ② 指導事項を指導するために効果的な言語活動を設定する。